

奈良県立大学生協 ろうふくエール基金 食料無料支援企画



[健康と安全]

取り組み概要

日時：1/17（火）1/26（木）
場所：奈良県立大学101教室にて配布
参加者数：計92名の学生に提供。
当日の様子は、NHK奈良や奈良新聞などの地元メディア社から取材を受けた。

背景：奈良県労働者福祉協議会より、奈良県立大学の学生を対象に、配布を通じた食の支援をしたいと依頼があった。それを奈良県立大学生協が受諾し、本企画の実施に至った。

地域団体と協力し、ニーズに応じた支援を実現

POINT.1

「地域×大学生協」が実を結んだ企画



今年度、関西北陸ブロック方針「健康・安全」分野では、ブロックで大切にしたいポイント③に「大学や地域と連携し、より大きな枠組みで組合員の安全・安心を支えましょう」と掲げています。

当企画では、大学への寄付講座を通じてご縁のあった地域団体よりお声がけを受け、それを大学生協が受諾したことから実現しました。地域と大学生協の双方向からアプローチすることで、学生の安心・安全に寄り添った企画となっていました。

POINT.2

提供品は学生委員会がチョイス！

提供品の内容は、奈良県立大学生協学生委員会店舗部門のメンバーが考案しました。他県でのフードバンクの例を参考に、企画2ヶ月前となる11月末から部会で議論を重ねてきました。「一人暮らしの人は何をもらったら嬉しい？」など、受け手視点に立った話し合いがなされていました。ただ内容を決めるだけでなく、現状や想いを鑑みることで、ニーズに応じた企画作りとなっていました。



POINT.3

届けたい人に確実に届けるための工夫を



当企画では、配布目的を「コロナ禍で生活が困窮した人向けの支援」と定め、「下宿生で、コロナ禍により収入が減った人」を対象とし、事前にフォームで申し込みがあった学生に対して提供を行いました。配布を受けた学生からは「インスタント食品があって本当に助かりました」「アルバイトを掛け持ちしてやっとの状況なので、これで1週間分の食費が浮きます」などの嬉しい反応がありました。事前に申請のあった学生に提供を行うことで、本当に支援を必要としている人に、確実に支援を届けることができていました。